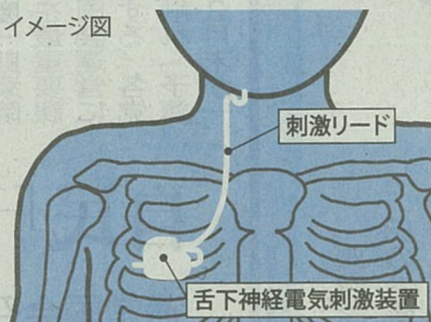


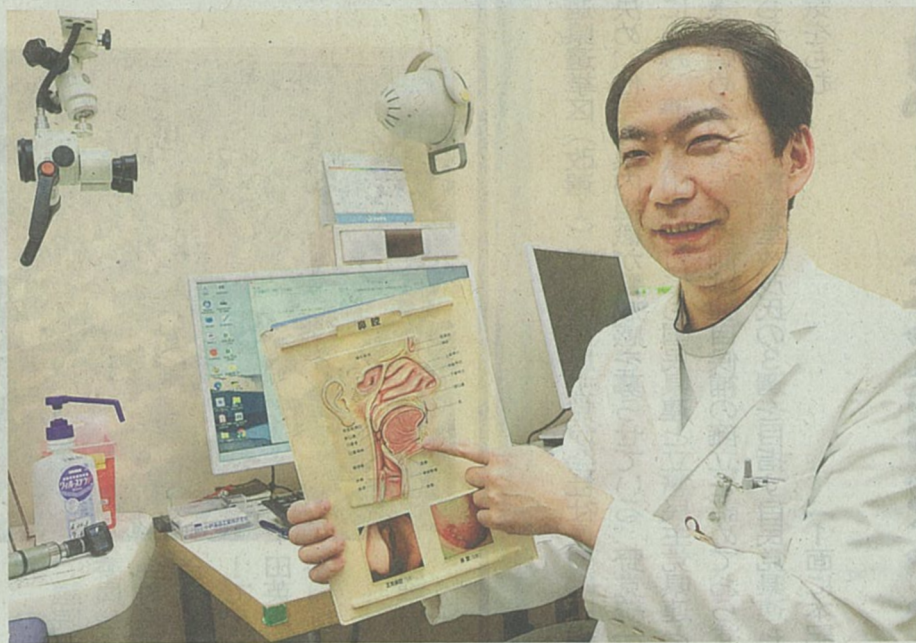
北陸で初

睡眠時無呼吸
射水で新治療

イメージ図



新たな治療法を説明
する徳永医師
射水市の真生会富
山病院



睡眠時無呼吸症候群(SAS)の新たな治療法が、北陸三県で初めて真生会富山病院(射水市)で導入された。「舌下神経電気刺激療法」と言われる、微弱な電気で舌の神経を刺激し、気道を確保する小型装置を体内に埋め込む治療法で、従来の経鼻的持続陽圧呼吸療法(CPAP)に比べ、より多くの人に効果が見込める。14日に初の手術が行われ、患者の術後の経過は良好という。

真生会富山病院

舌の神経刺激 気道確保

CPAPは睡眠時にマスクを使い、気道に空気を持続的に送り込むことで、喉の閉塞を防ぐ治療法である。

ただ、寝る前にマスクの装着が必要で、睡眠中の無

意識のうちにマスクを外してしまう患者も少なくない。新たな治療法は、こうしたCPAPが困難な患者向けに米国で開発された。

手術では、右胸の皮膚の下に装置を埋め込む。睡眠

前にリモコンで装置を起動させると、呼吸に合わせて微弱な電気が舌根を持ち上げ、気道を広げる。

マスクの装着が不要なため、より自然な形で睡眠が可能とされ、日本では2021年6月に保険適用となった。国内ではこれまでに約70の手術例がある。

北陸三県では、新たな治療法は真生会富山病院と金沢医科大学病院が、日本口腔・咽頭科学会から認定されている。術後の通院検査は、金沢医科大学病院で行われる。

14日の手術で執刀した耳鼻咽喉科の徳永貴広医師(49)は学会の研修を受けるなどし、準備を進めてきた。徳永医師は「SASを患う人にとって、新たな治療法の登場によって選択肢が増える。さまざまな合併症のリスクがあるSAS患者の不安や悩みを取り除きたい」と話した。



睡眠時無呼吸症候群(SAS) 寝ている時に何度も呼吸が止まってしまう病気。空気の通り道である喉が閉じて呼吸が止まるタイプと、呼吸を命じる脳からの信号が一時的に送られなくなるタイプの主に2種類ある。SASのほとんどが閉塞(へいそく)性タイプで、肥満の人や、生まれつきあごが小さく気道の狭い人がなりやすい。日中の眠気や集中力の低下による交通事故リスクの増加や、高血圧や心臓病、脳卒中などの重篤な合併症を引き起こす恐れがある。